

令和4年度埼玉県高等学校PTA連合会

進路指導専門委員会研修会 参加報告

令和4年11月15日（火）埼玉会館小ホールにて、
令和4年度進路指導専門委員会研修会が開催されました。
進路指導協力部の理事2名（多胡、土橋）で参加致しました
ので以下の通りご報告致します。



講演会

- 講師： キャリアガイダンス編集長
国立大学法人 東京学芸大学 客員准教授 赤土 豪一氏
演題： 【これからの社会で大切な、自分の問いをもつ力について】

講演要旨

高校生と保護者の進路に関する意識調査

・進路について話すか？

高校生 82.9% 保護者 88.6%

・相談相手は誰か？

母親 84.6%

父親 45.5% (↑) → コロナ禍で父親がリモートワーク等により

友人 41.5% (↓) 在宅が増え近年上昇

・高校生が進路を考える時、どんな気持ちか？

約30% 楽しい 約70% 不安

↓

1位 学力が足りないかも 55.4%

2位 やりたいことが分からない 36.4%

3位 自分に合っているものが分からない 35.4%

・子供が受験時の保護者の不安

・社会がどのようになっていくのかわからない 53.1%

・最新の入試情報が分からない 51.0%

社会の変化

成長社会から成熟社会へ そしてVUCA時代に。

V=Volatility（受動性）

U=Uncertainly（不確実性）

C=Complexity（複雑性）

A=Ambiguity（曖昧性）

2022年 4月 学習指導要領改定
総合学習から探求学習への改定
日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する
力を養う事を目的に改定。

(1) そもそも「課題」って何だろう？

(例) ランチ時にカフェテリアが混雑する。どうしたら混雑せずにみんなが快適に食事ができるだろうか？

(2) 「課題」を発見する

- ・考え方のヒントとして色々な視点で物事を見るメガネをかける。
- ・自分が心から取り組みたいと思える身の回りの小さな気づき。
- ・視点を変えることで課題発見。
- ・半径5mの気づき。課題は身近にたくさん存在する。
- ・課題を発見する力を養う。小さな発見を面白い習慣をつける。

課題は身近にたくさんあり、学校指導要領の改定により学生たちが課題を発見する力が今後さらに身につくことが大切だと感じました。

研究協議

(1) 実践発表

東部支部

埼玉県立八潮南高等学校

【八潮南高校の進路指導とPTA】

西部支部

埼玉県立和光高等学校

【和光高校の進路指導とPTA】

南 支部

埼玉県立上尾橘高等学校後援会

【PTA・後援会の活動実践報告～保護者と学校の連携の要として】

北部支部

埼玉県立熊谷工業高等学校

【熊谷工業高校の進路指導に関わるPTA活動】

(2) 質疑応答

(3) 指導講評

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

指導主事

中澤 良介氏

今年度、実践発表を行った各支部の代表4校に共通することとして、生徒1人1人の最適な進路実現に向けて、学校とPTAが協力し合い、生徒を支えているという点がありました。私たち進路指導協力部も、様々な学校の取り組みから学び、学校とPTAを通じて保護者の皆様にお役に立てるような活動をしていきたいと思いました。



文責 進路指導協力部